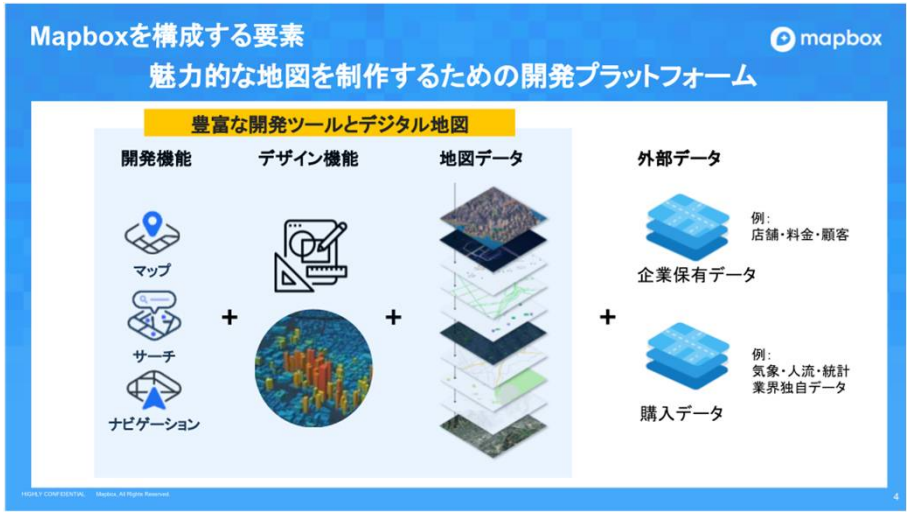
クリエイターとエンジニアのための地図開発プラットフォーム **Mapbox**のご紹介

デジタル地図のプラットフォームであるMapboxは全世界で多くの開発者、ユーザーに利用されています。2020年3月に日本で地図サービスを開発するエンジニアやクリエイターのサポートを強化するためマップボックス・ジャパン合同会社を立ち上げました。
Mapboxの特徴は、豊富な開発ツールと強固なクラウド地図データ基盤を基にしており、また、外部データと組み合わせて独自のサービスや機能を構築できる柔軟性にあります。利用者やお客様からは、クラウド地図の特徴から「地図のAWS」、あるいはデザイナー向けのツールは「地図のPhotoshop」などとしてご利用いただいています。
創業者のエリック・ガンダーセンは「地図のない世界に光を」として、パキスタンの洪水マップやアフガニスタンの選挙マップの作成など、限られたデジタル環境 下でも大量のデータをマッピングできるツールとしてMapboxを開発し、発展途上国に限らず世界中の様々な分野で高パフォーマンスを発揮する地図プラットフォームが誕生しました。こうした背景から生まれたMapboxのツールは、使いやすく、手軽に利用できるような特徴も備えています。

現在、Mapboxの利用者は全世界で登録開発者が約400万人、導入アプリが4.5万程あり、月間の利用者は約7億ユーザーとなっています。プラットフォーマーのMapboxの名前はユーザーの目に触れる機会は少ないですが、平均的に一人のスマートフォンに2つ~3つのアプリでMapboxが利用されていると言われています。
スマートフォンの地図アプリや、Webサービスでの実績は既に多数ですが、最近では、位置情報ゲームや車載機のカーナビゲーションで採用されるケースが増えてきています。